

総務省「放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材の在り方等に
関する調査研究」

放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材

『情報娯楽番組「ケータイ情報局！」
オープニング分析』

～ Web教材 ～

<平成22年3月版>

〔監修〕 中村 純子（川崎市立宮前平中学校 教諭）

〔企画・制作〕 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

目 次

本教材について	1
学習指導案：情報娯楽番組 オープニング分析	2
ワークシート 1	7
ワークシート 2	9
参考資料「Flash教材の絵コンテ」	13

<教材開発協力>

斎藤俊則（日本教育大学院大学 准教授）

下村健一（市民メディア・アドバイザー）

椿山美紀（川崎市立南加瀬中学校 教諭）

赤木 洋

<本教材について>

本教材は、平成21年度総務省事業「放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材の在り方等に関する調査研究」の一環として開発された教材です。

主に中学校での使用を対象としており、メディアリテラシー教育の幅広い分野の中で、特に「映像メディアの特徴」に焦点を当てています。

◆本教材を使用する前に必ずお読み下さい

ここに収録されているFlashで作成した映像は、「携帯電話を活用した勉強法」を番組テーマとした架空の「情報娯楽番組」のオープニングをイメージして制作されたものです。

この架空の情報を素材に、学習者に疑問を持たせて吟味・分析する意欲を高めるとともに、情報を伝えるテレビ番組の工夫やノウハウを理解して番組をさらに楽しめるように指導することを想定しています。

※ 携帯電話の使用を学習に推奨する意図はございません。

◆授業に取り組むにあたって

授業の運営方法やポイントは、次頁以降の「学習指導案」をご覧ください。付属のワークシートはB4もしくはA3に拡大してご利用ください。

なお、本指導案では、メディアリテラシーの分析理論の基礎事項を理解させることをポイントにしております。メディアリテラシーの授業に初めて取り組む方は、本教材の姉妹編である「テキスト教材 Ⅱ. 理論」も合わせてご活用下さい。

総務省「放送分野におけるメディアリテラシー」

(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyouzai.html)

学習指導案：情報娯楽番組 オープニング分析

中学2年生
読むこと 書くこと
2時間扱い

【目標】

- 1 国語科の学習目標 (平成20年版学習指導要領 国語科編)
「読むこと」 目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせる。
- 2 メディアリテラシーの学習目標
メディア情報はメディアの形式とコードを活用し構成されており、オーディエンスは多様なコンテキストに影響され多様な解釈を行うことを理解し、自らの読解に役立てる。

【内容】

- 1 国語科 学習内容 (平成20年版学習指導要領 国語科編)
「読むこと」
ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。
イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。
ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。
オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。
- 2 メディアリテラシー 学習内容
a メディアのコードを理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
b メディアの構成を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
c コンテキストが情報に及ぼす影響を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
d 制作の意図と表象の関係を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
d-1 バイアスについての理解 d-2 ステレオタイプについての理解
e オーディエンスを想定し、反応を予測し、情報の解釈や制作を行うこと。

【評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	メディアリテラシー
<ul style="list-style-type: none"> ・メディア・リテラシーを身につけ、日常のメディア情報の活用に関心を持って役立てようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な概念を表す語句などに注意して読んでいる。 ・構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 ・ものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。 ・適切な情報を得て、自分の考えをまとめている。 ・描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアのコードを理解し、情報を解釈している。 ・メディアの構成を理解し、情報を解釈している。 ・コンテキストが情報に及ぼす影響を理解し、情報を解釈している。 ・制作の意図と表象の関係を理解し、情報を解釈している。 (バイアスについての理解)。 (ステレオタイプについての理解) ・オーディエンスを想定できている。

【授業の構想】

1 身につけさせたい力

私たちが日常生活の情報収集で最も頻繁に活用し、影響を受けているメディアはテレビである。近年、テレビでは情報娯楽番組が増えてきている。情報娯楽番組は、視聴者に情報をわかりやすく伝えるために、再現ドラマや、実験や調査のデータ、インタビューなどを活用して構成されている。さらに、情報の解釈の方向性はタレントや識者のコメントで示される。こうした番組の情報を適切に活用し楽しむためには、番組の内容を主体的に吟味分析するメディアリテラシーが必要である。

そこで、架空の情報娯楽番組のオープニングを教材として活用し、メディアを分析する着眼点を指導していく。この学習を通して、日常生活のテレビ視聴でも、情報を主体的に分析できるメディアリテラシーを身につけさせていきたい。

2 教材の選択

① Web教材 情報娯楽番組「ケータイ情報局！」オープニング

本教材は架空の情報娯楽番組のオープニングである。「携帯電話が学習に役立つ」という従来の携帯電話に関する考え方とは異なる情報を提示することにより、情報の内容に対して疑問を持って分析する意欲が高めることを意図した。また、「オープニング」はその番組の概要を提示し、視聴者がチャンネルを変えないように関心を引きつける役割を果たしている。ゆえに、「オープニング」を活用することにより、情報娯楽番組の要素を網羅して分析できると考えた。短時間で繰り返し視聴できる点も教材に適していると言える。

② グラフ

番組の中で活用するグラフは文化庁が平成18年度に行った『国語に関する世論調査』の結果を活用した。情報化時代における漢字使用、慣用句等の意味の理解や使用に関する意識調査である。

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/yoronchousa/h18/kekka.html

この調査結果から、番組の制作意図にあったデータを取り出し、強調した表現で提示した。番組で提示するグラフと基となったグラフの比較を通して、情報を批判的に分析することの重要性を認識させていく。

3 指導上の留意点

- ① 本教材は携帯電話に関する架空の情報を扱うことによって、学習者に疑問を持たせ、吟味分析する意欲を高めることを意図とした教材である。本教材では情報の信憑性の批判だけにとどまらず、教材そのものを楽しみながら、情報をわかりやすく伝えるテレビの技法を分析する指導をしていく。
- ② 本単元の学びのポイントはメディアを批判的に分析する着眼点として、「コード」「構成」「コンテクスト」「バイアス」「ステレオタイプ」「オーディエンス」の理解を促すことである。(テキスト教材 理論編 参照)
- ③ 本単元では2枚のワークシートを活用し、分析の着眼点を指導していく。解釈や評価に関しては、オープンエンドとし、多様性を尊重する方向で指導する。解釈には一つの正解はなく、多角的な視点からのアプローチが成立する。解釈や評価の「結論」よりも、むしろその根拠を論理的に説明できることを重視していきたい。自己の考えをまとめ、わかりやすく伝える指導が、解釈の主体として能動的に分析する力を育むことにつながっていく。
- ④ 教材は、パソコン教室でコンピュータを活用し、学習者がそれぞれのペースで一時停止をかけながら繰り返し視聴することが望ましい。普通教室で行う場合は、指導者がコンピュータ、プロジェクター、スクリーンを用い、教材を繰り返し上映し、一斉視聴で分析に取り組ませる。

【指導案】

時	学習目標	評価規準	評価方法
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話に関する情報や自分の考えを確認する。 Web教材が虚構を前提としていることをふまえ、Web教材を視聴する。 Web教材の制作意図、構成、情報の内容を分析し、視聴者に与える効果を考察する。 教材の「映像、音、書き言葉」の表現の工夫を見つけ、意味の解釈を行い、発表を聞き、解釈の多様性に気づき、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。 ＜読むこと エ＞ コンテキストが情報に及ぼす影響を理解し、情報を解釈している。 ＜メディアリテラシー c＞ 構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 ＜読むこと ウ＞ メディアの構成を理解し、解釈している。 ＜メディアリテラシー b＞ 抽象的な概念を表す語句やなどに注意して読んでいる。 ＜読むこと ア＞ メディアのコードを理解し、解釈している。 ＜メディアリテラシー a＞ 	<p>発言</p> <p>ワークシート1の記述</p>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料のグラフと比較し、教材のグラフにかけられたバイアスを分析し、制作者の意図を考察する。 登場人物、ナレーターの果たす役割、性別、年齢層を分析し、メディアが表象する人物のステレオタイプについて考察する。 登場しない人物像から相対的に分析し、オーディエンスを想定する。 視聴者の立場で番組の評価を行い、複数の意見を聞くことによって、批判的な分析を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な情報を得て、自分の考えをまとめている。 ＜読むこと オ＞ 制作の意図と表象の関係を理解し、情報を解釈している。 (バイアスの理解) ＜メディアリテラシー d-1＞ 描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てている。＜読むこと イ＞ 制作の意図と表象の関係を理解し、情報を解釈している。 (ステレオタイプの理解) ＜メディアリテラシー d-2＞ オーディエンスを想定できている。 ＜メディアリテラシー e＞ メディアリテラシーを身につけ、日常のメディア情報の活用に役立てようとしている。 ＜国語への関心・意欲・態度＞ 	<p>ワークシート2の記述</p> <p>学習のまとめの記述</p>

学習活動	指導上の留意	時
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの日常を振り返り、携帯電話に対する考え方を確認する。 ・教材がエイプリル・フルを前提として制作されていることを確認し、感想を述べる。 ・教材を繰り返し視聴し、携帯電話の活用を促す制作意図を視聴者に伝えるための構成の技法を分析する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 「現状分析」ではナレーターが挙げる問題点について知っている情報を書き出す。 ② 「再現ドラマ」で登場人物が示す情報を確認し、誰に向かって話しかけているかを考察する。 ③ 「国語学者」「本編への導入」が示す情報を確認する。 ・構成された情報が視聴者に与える影響を分析する。 ・「映像、音、書き言葉」の表現の工夫を見つけ、その意味を解釈し、ワークシートに書き出す。 ・コードの分析結果を発表し合い、多様な解釈があることを認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1の*の質問に答えさせ、携帯電話の所有状況や中学生の携帯所持に対する考え方を確認させる。 ・最初の一斉視聴では、教材の内容が虚構であることを確認し、疑問点を探して視聴することを確認しておく。 ・「現状分析」ではナレーターが挙げる携帯電話の問題点の背景について、説明を加える。 ・「再現ドラマ1」では母の目線から、誰に向かって話しかけているか、様々な可能性を考えさせ、「再現ドラマ2」で娘が携帯画面をを見せる相手が視聴者であることに気付かせていく。 ・国語学者が示す情報はグラフのタイトルから確認させる。「本編の導入」では携帯を持つ中学生が複数登場する意味を考えさせる。 ・表現の工夫を見つけるヒントを示す。映像のコード「カメラワーク・背景・照明・表情」、音のコード「セリフ・音楽・効果音・拍手・笑い・ガヤ音」書き言葉のコード「言葉の選択・サイズ・レタリング」（理論編 参照） ・表現の意味を解釈する約束事が「コード」であることを説明する。 	第1時
<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの提示の仕方に着目し、Web教材を視聴する。 ・グラフ資料の4つのグラフと教材のグラフを比較し、バイアスをかける理由とその効果を考える。 ・登場人物とナレーターの教材での役割を確認し、性別と年齢層からその人物像がその役割に選ばれた理由を考える。 ・教材に出てこなかった人物像とその理由を考え、教材の制作者が意図したオーディエンス像を考える。 ・教材の番組オープニングとしての評価を行い、その理由を説明し、意見交換を行う。 ・ワークシート1の*の質問を振り返り、中学生の携帯所持に対する考え方と番組評価との関連を考察する。 ・本単元で学んだことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時でグラフに対する疑問点が出ていれば、その発言を振り返り、導入とする。 ・4つのグラフの10代、60代の正答率の数値に着目させ、教材のグラフではY軸の比率を操作していることに気づかせる。 ・制作者の意図を強調するためにバイアスがかけられることを説明する。 ・テレビでは人物をわかりやすく表象するために、ステレオタイプが活用されることを説明する。 ・登場しない人物と相対化させ、オーディエンスを想定させ、その人物像が再現ドラマの登場人物に重なることに気付かせる。テレビでは視聴者が共感できる人物像を提示し、鏡のような役割を果たす場合があることを説明する。 ・番組評価と自己の携帯電話に関する考え方の関連を確認し、自己のコンテキストが情報の解釈に及ぼす影響を確認する。 ・メディア分析の枠組を日常のテレビ視聴でも活用するように促す。 	第2時

【評価規準】

第1時 評価資料＝発言、ワークシート1

	A	B	C
＜読むこと エ＞ もの見方や考え方 ＜メディアリテラシーc＞ コンテキスト	携帯電話に関する社会のコンテキストをふまえ、教材の情報に対して批判的に分析することができる。	携帯電話に関する社会のコンテキストを理解し、教材の情報に対して批判的に分析することができる。	携帯電話に関する社会のコンテキストと教材の内容が異なることを認識できる。
＜読むこと ウ＞ 構成や展開 ＜メディアリテラシーb＞ 構成	制作の意図を理解し、教材の構成やナレーターの語りを分析し、視聴者に与える効果を考察することができる。	教材の構成やナレーターの語りが視聴者の解釈に影響を与えていることがわかる。	教材の構成を認識し、提示された情報の概要を認識することができる。
＜読むこと ア＞ 抽象的な概念 ＜メディアリテラシーa＞ メディアのコード	教材の解釈で活用するコードを見出し、豊かな解釈をすることができる。	教材の解釈で活用するコードをいくつか見出し、解釈することができる。	教材の解釈で活用するコードを認識することができる。

第2時 評価資料＝ワークシート2

	A	B	C
＜読むこと オ＞ 情報を得て、考えをまとめる ＜メディアリテラシーd-1＞ 表象・バイアス	グラフの比較から、バイアスを分析し、制作の意図をふまえ、そのように表象された理由を考察することができる。	グラフの比較から、バイアスを見抜くことができる。	グラフの比較から、バイアスを認識できる。
＜読むこと イ＞ 登場人物の言動の意味 ＜メディアリテラシーd-2＞ 表象・ステレオタイプ	登場人物の言動から教材の中で果たす役割を分析し、その性別、年齢層が選ばれた理由を考察し、ステレオタイプの表現の効果を理解できる。	登場人物の言動から教材の中で果たす役割を分析し、その性別、年齢層が選ばれた理由を理解できる。	登場人物の言動から性別、年齢層を推測することができる。
＜メディアリテラシーe＞ オーディエンス	登場しない人物像とその理由を分析し、制作者が意図するオーディエンスが教材に登場する母娘に近いことを理解できる。	登場しない人物像とその理由を分析し、オーディエンスを想定することができる。	登場しない人物像とその理由を理解し、オーディエンスの存在を認識することができる。
＜国語への関心・意欲・態度＞ メディアリテラシー ーを日常に役立てる。	自己の携帯電話に関する考え方がコンテキストとして教材の評価に影響を及ぼしていることを理解できる。メディアの分析概念を理解し、日常に役立てる意欲を示している。	教材を評価し、自己の携帯電話に関する考え方が評価に関連していることに気付くことができる。評価しながらテレビ視聴をしていく意欲を示している。	教材を評価として、番組視聴の意志を示すことができる。

第1時 ワークシート1 情報娯楽番組「ケータイ情報局！」オープニング

年 組 名前

*中学生の携帯電話所持についてはどう考えますか？






<ア、持つべきだ イ、時には必要だ。 ウ、なるべく持たない方がいい。 エ、絶対禁止だ。 >

理由

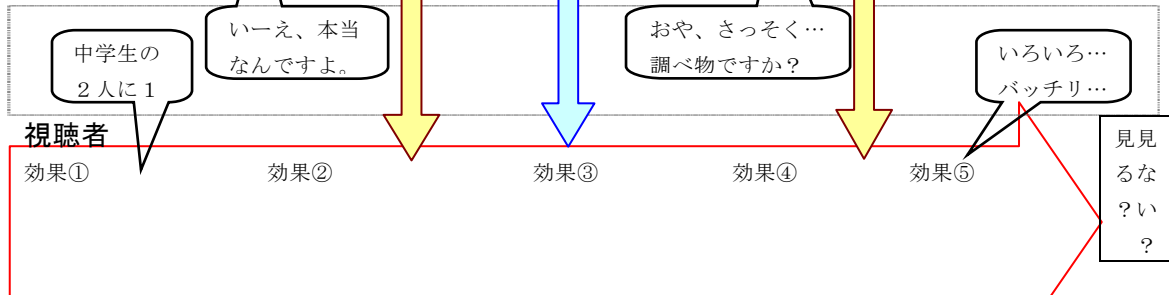
構成の分析

4月1日＝ 「 」意味＝

「ケータイ情報局！」の制作意図＝

現状分析 「有害サイト」 とは？ 対策 「使用料」	再現ドラマ1  娘が「 」に示す情報 「  疑う母 目線の先は？ 「	データ提示  国語学者が示す 情報 ① ②	再現ドラマ2  「さっきは信じてな かったのに…」 言い換えると… 『  娘の目線の先は？ 「	本編への導入 この画面が 示す情報 =
--	--	--	--	---

ナレーター



コードの分析

	表現	意味
映像		
音		
書き言葉		

グラフ資料

＜平成18年度「国語に関する世論調査」の結果について 文化庁＞

調査対象：全国16歳以上の男女 調査時期：平成19年2月14日～3月11日

調査方法：個別面接調査 調査人数：1,943人

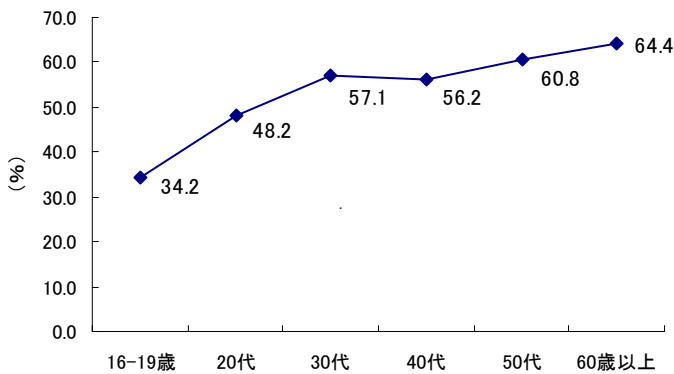
言葉の言い方

(1) から (4) の内容を表現するとき、どちらの言い方を使うか。

(1) 「混乱したさま」を

○上や下への大騒ぎ…58.8%

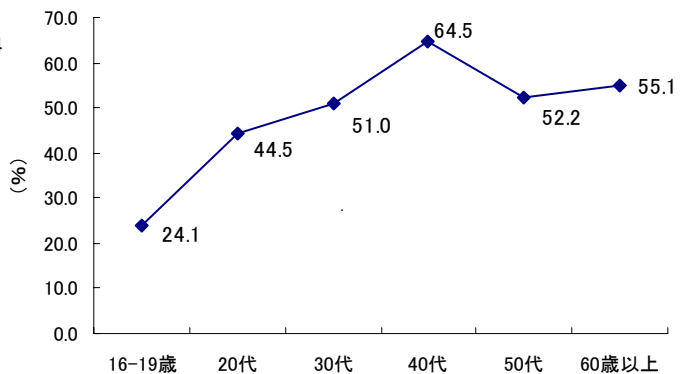
×上を下への大騒ぎ…21.3%



(2) 「前言に反したことを、すぐに言ったり行ったりするさま」を

○舌の根の乾かぬうちに・53.2%

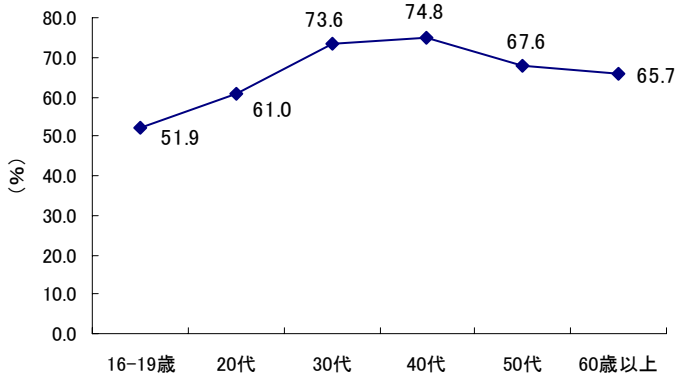
×舌の先の乾かぬうちに・28.1%



(3) 「そんなに思いどおりになるものではないこと」を

×そうは問屋が許さない…23.5%

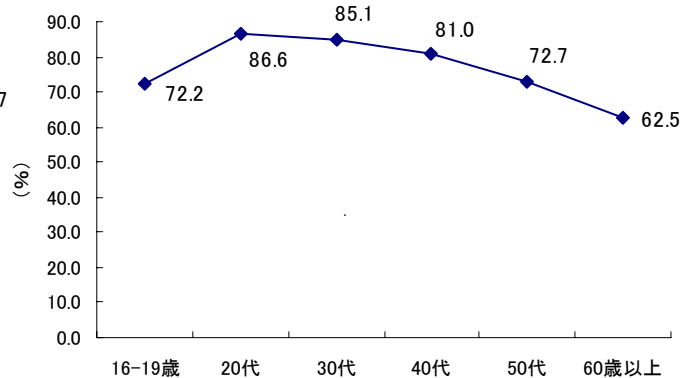
○そうは問屋が卸さない…67.7%



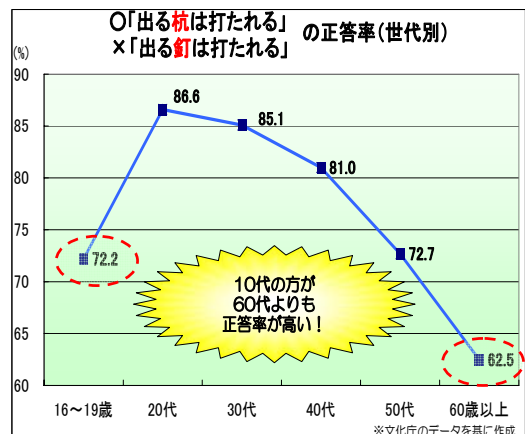
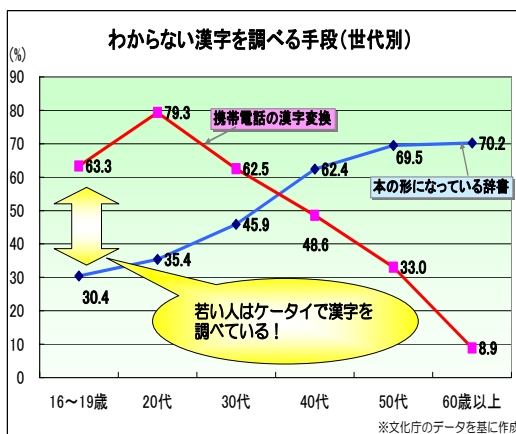
(4) 「差し出て振る舞うものは他から制裁されること」を

○出る杭(くい)は打たれる・73.1%

×出る釘(くぎ)は打たれる・19.0%



Web教材で示されたグラフ



第2時 ワークシート2 情報娯楽番組「ケータイ情報局！」オープニング
年 組 名前

1 グラフの分析

- ①「グラフ資料」を見て、文化庁の平成18年度「国語に関する世論調査」結果と番組で使われたグラフを比べ、気付いたことを書きなさい。

- ②このようなグラフが示された理由を考えましょう。

2 登場人物 ナレーターの分析

Web教材の中で、登場人物は表にあるような役割を果たしていました。人物の性別と年齢層を記入し、その人たちがその役割に選ばれた理由を考えましょう。

	役割	性別	年齢層	選ばれた理由
初めの中学生	携帯電話中毒になっている様子を 示す役割	男子 女子	代	
ナレーター	落ち着いた声で信頼感を与え、ユーモアを交えて関心を引き付け誘導する役割		代	
国語学者	視聴者を納得させる証拠となるデータを示す役割		代	
母	視聴者の目線を代表し、番組の情報を信じる過程を示す役割		代	
娘	携帯電話の有効な使い方を実践し、その成功例を示す役割		代	
最後の中学生		男子 女子	代	

3 オーディエンスの分析

- ① この教材の中に出てこなかった人物像を5つ挙げましょう。

- ② なぜ、それらの人たちは出てこなかったのでしょうか？

- ③この番組の制作者が想定した視聴者（オーディエンス）はどんな人でしょうか？

4 番組評価 あなたはこの番組の本編を見たいと思いましたが？なぜですか？

< 見る ・ 見ない >

理由

ワークシート1*で答えたあなたの携帯電話所持に対する考え方と番組評価は関連していますか？
...

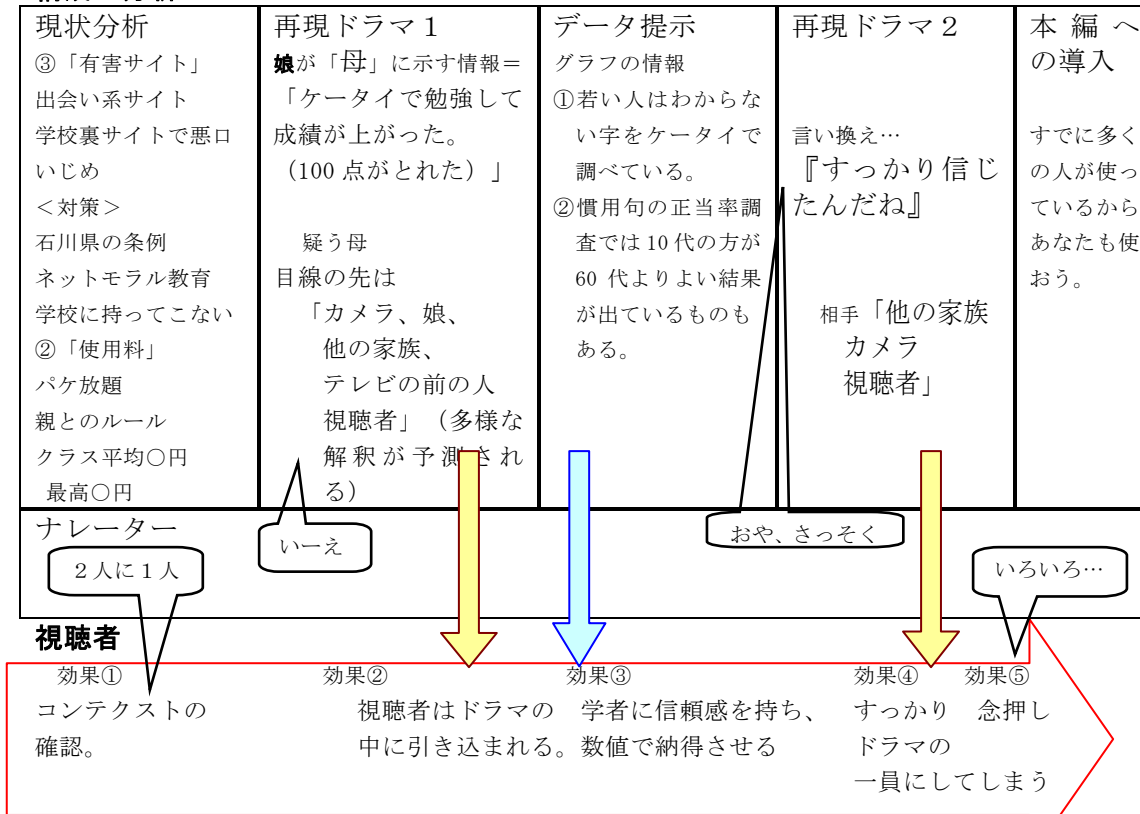
学習のまとめ

わかったこと…

第1時 板書例1 情報娯楽番組「ケータイ情報局！」オープニング

4月1日＝「エイプリル・フール」意味＝冗談が許される日
 制作意図＝学習に役立つことを示し、携帯電話の活用を促したい。
 ケータイに対するメディア観を肯定的なものにしたい。

構成の分析



コンテキスト＝情報の背景 一般常識

コードの分析 (記入例)

	表現	意味
映像	初めの中学生の場面は暗く、おわりの場面は明るい。	初めは携帯電話の悪い面を象徴し、終わりは良い印象を与えるため。
	初めの場面の中学生は顔が見えないように映されている。	匿名性を持たせ、携帯電話のデメリットを強調している。
	ロングショットで家が映されている。	再現ドラマの舞台となる場所を示している。
	母の顔がクローズアップで映される。	娘の話を疑ったり、ナレーターの声に驚いたりする心情を伝えている。
	ローアングルで新聞を読む母を映している。	うつむいて新聞を読む母が難しい漢字に疑問を持っている様子を示す。
	学者はネクタイをつけて背広を着ている。背景が本棚。	その分野の専門家である信頼できることを意味している。
音	男性のナレーターがユーモアを交えてしゃべっている。	真面目な信頼感を与えると同時に視聴者に親近感を持たせている。
	グラフのところで「へー」という声が入る。	グラフのデータの意外性を強調している。
	場面によってBGMが変わる。	初めは暗い印象を与え、ドラマから明るい印象を与える。場面転換の意味。
	娘の声にエコーがかかっている。	娘が心の中でつぶやいた言葉であることを意味する。
書き言葉	初めの画面が黒字に白抜きで文字で書かれている。	オープニングとは別の前置きで、この番組が架空であることを示している。
	100点のロゴが大きく赤い字で描かれている。	母親の驚きを意味している。
	「ケータイで勉強」という字は白抜きの青で描かれている。	クールで知的な印象を与える。
	国語学者の紹介が縦書きで描かれている。	日本語の特質を示し、国語の専門的な知識を持っていることを意味する。

第2時 板書例2 情報娯楽番組「ケータイ情報局！」オープニング

1 グラフの分析

①気付いたこと

- ・4つのグラフのうち、10代の方が正当率が高いのは一つだけだ。
- ・「出る杭は…」の10代と60代 の正当率の差は0.7%だけだ。
- ・番組のグラフは60%から上だけを切り取って見せているから、大きく差があるように見える。
- ・ケータイでわからない漢字を調べた人が、慣用句が分かるようになるわけではないのに、関係があるようにつなげているのが おかしい。

②理由

携帯電話を使う若い世代は新しい勉強方法で言葉の力を身につけていることを強調するため。自分たちの主張を強めるために、都合の良い所だけを切り取った。

バイアス＝斜め、偏り、先入観

2 登場人物 ナレーターの分析

誰	役割	性別	年齢層	選ばれた理由
初めの中学生	携帯電話中毒	男子 女子	10代	中学生と携帯電話の問題で悪いイメージを持たせるため。
ナレーター	落ち着いた声	男性	40代	落ち着いた感じのベテランの男性の声の方が信頼されやすいから。
国語学者	証拠データを示す役割	男性	40代	男性で学者という肩書きで専門的知識がある信頼感を与えやすい。
母	視聴者の目線代表	女性	40代	中年の女性は新しいメディアに弱いものと思われているから。
娘	成功例	女性	10代	携帯電話を持ちたい中学生の代表女子の方が漢字が得意そう。
終わりの中学生		男子 女子	10代	携帯電話を持って良かった例として真面目な感じの子が選ばれた。

ステレオタイプ＝典型的な人物像

3 オーディエンスの分析

① 出てこなかった人物像

高齢者、乳幼児、若い母親 魚屋さん サラリーマン
父親 幼稚園の先生 お兄さん、おじさん

② 理由

携帯電話に縁がない
携帯電話を子供に買い与えることを考えない。

③ オーディエンス

受験を控えている中学生・高校生
中学生を持つ母親

鏡

教育関係者 塾の先生 教育産業の人

4 番組の評価

見ない □人	見る □人
<ul style="list-style-type: none"> ・暗記モノが不得意だから、何か役に立つことがあるなら知りたい。 ・親にケータイを買って欲しいから、説得材料に使えそう。 ・面白そう。 ・DSのゲームで漢字とか英語のがあるからケータイでもありそう。 ・教育ママは我が子にやらせようと思って見ると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケータイを使ってるけど、そんなに辞書とか使わないし、ウンっばい。 ・かなり作りこんでいることがわかったし、この後、いろんな情報が示されても全部冗談だと思うから。 ・面白くなさそう。くだらない。 ・成績はコツコツ書いて覚えたり問題を解くから成績が上がるのであって携帯電話のおかげではない。

*が関連していた…□人、関連していない…□人

指導者用資料 <携帯電話所持規制について>

2009年1月、文部科学省は全国の教育委員会に、小中学校への携帯持ち込みを原則禁止とする通知を出しました。

同年6月、石川県議会では、全国で初めて、小中学生の携帯電話所持を規制する「県いしかわ子ども総合条例」の改正を可決しました。この条例は防災や防犯以外の理由で小中学生に携帯を持たせないようにと、保護者に努力義務を呼びかけるものです。さらに、18歳未満の携帯電話のフィルタリング（閲覧規制）を販売事業者が解除する時には、保護者が理由を書いた書類を提出してもらうことを義務付ける条例も可決されました。このような所持規制の動きには2008年に石川県の男子高校生が携帯電話のサイトへの書き込みをきっかけとする暴力事件を起こしたことが背景にありました。

現在、携帯電話からネット上の掲示板や個人のブログ、メールへの書き込みによる、イジメが問題となっています。特定のできない多数の人から一個人にむけて、執拗な誹謗中傷が続けられた結果、その人が精神的に追い込まれ、自殺や暴力事件を起こす例があります。

また、無料ゲームを装い子どもの関心を引きつけ過激な性情報の有料サイトへと誘い込む有害サイトも問題になっています。

さらに、「プロフ」という自己紹介サイトに顔写真や個人情報を載せてしまったことをきっかけにトラブルに巻き込まれたり、出会い系サイトを通じた性犯罪に巻き込まれる事態も起きています。

このような背景もあり、携帯電話の所持規制が条例化されてきたのです。

ただし、一方で携帯電話の所持を規制する動きを疑問視する声も上がっています。ネット安全モラル学会は情報通信の自由を保障するためにも、インターネット機能に問題があることを明確にして、情報モラル教育の指導をすべきであると、石川県議会に条例反対の陳情書を2009年6月に提出しました。その背景には携帯電話は社会生活で必須のコミュニケーション・ツールとなっており、情報通信の普及に即した教育改革の方向と逆行しているという主張があります。所持規制がいじめ問題の解決につながるわけではないとも指摘しています。

また、文部科学省の「子供の携帯電話等の利用に関する調査」に検討委員会委員としてかかわった千葉大学の藤川大祐准教授は、家庭によっては、親子のコミュニケーション・ツールとして携帯電話が重要な役割を果たしている場合もある点、ケータイ小説の会員制交流サイトやゲームのサイトを表現の場やストレス発散の場として活用し、気持ちが救われている子ども達がいるという点を指摘し、携帯電話の所持規制に疑問を投げかけています。

携帯電話のメリット、デメリットを理解し、よりよく活用できるように、情報とのつきあい方に関する適切な指導をすることが学校でも家庭でも急務となっています。

<教材で示された難読漢字>

- ・虚心坦懐（きょしんたんかい）＝心にわだかまりなく、平静に事に望むこと。
- ・鯿（はぜ）＝スズキ目ハゼ科の魚の名称。都市部の河川や海岸にも多く生息し、釣りを楽しむ人も多い。
- ・蕃茄（ばんか）＝トマト
- ・桑土綢繆（そうどちゅうびゅう）＝災難を未然に防ぐために、あらかじめ準備すること。「桑土」は桑の根。「綢繆」はまといからみつこと。風雨が来る前に、鳥が桑の根を取って自分の巣穴にまきつけて風雨から守ろうとする意。
- ・東雲（しのめ）＝日本の古語で闇から光へと移行する夜明け前に茜色にそまる空を意味する。本来は夜半すぎから夜が明けるまでの間を「あかつき」（暁）、「しのめ」（東雲）、「あけぼの」（曙）と細かく区分していた。





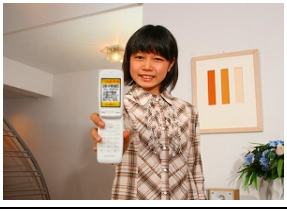



参考資料「Flash教材の絵コンテ」

No.	イメージ	音声（セリフ、ナレーション、BGM、SEなど）	画像（テロップ、CG効果など）
1			
2			4月1日と示して、エイプリルフールを少し連想させる
3		BGM：少し暗い感じの音楽 ナレーター：「今や、中学生の2人に1人が持っているといわれている携帯電話。有害サイトへのアクセスや使用料の負担が問題になっています。」	CG効果：画像の周辺部を暗くする。さらに、画像を少し粗くする 音楽にあわせて駆け足で、ナレーションの時間内に進める
4			
5			
6			

7			
8			
9			
10			
11		BGM：平和な日常の音楽	前の画面での携帯電話の暗い側面から一転して明るい雰囲気に変えるため、家の外観をいれてイメージを切り替え
12		現場音：ガチャン（玄関の扉が閉まる音） 娘：「ただいまー」	自然に見せるために挿入
13		現場音：バタバタバタ・・・（廊下を駆ける音）	喜びの様子を示す
14		娘：「お母さん、テストの結果見て！」 現場音：バシッ・・・（紙の音）	

15			
16		SE : ドラムロール 母 : 「え〜！100点！」	テロップ : 「100点」
17		娘 : 「じゃ〜ん！」 SE : ドーン 娘 : 「このケータイのおかげ！」	
18		母 : 「そんなウソついたって！」 天の声 (ナレーション) : 「いーえ」	
19		SE : キラリン (注意を惹きつける) 天の声 (ナレーション) : 「本当なんですよ」 母 : 「？」	テロップ : 「？」を入れる
20		SE : トウルン BGM : ポップな音楽 ナレーション : 「電話やメール以外にも、漢字や英語、小説までアプリも様々。携帯電話で勉強、という時代なのです。」	CG効果 : 背景を明るくぼかす
21			テロップ : 「ケータイで勉強」 CG効果 : 中心部にかけてエフェクトをかける
22		BGM : 停止 母 : 「そんなことって・・・ほんとにあるの？」	

23		<p>SE：ジャン BGM：アップテンポな音楽</p> <p>ナレーター：「信じていただけられないようですね。みなさんは、わからない漢字がある時にどうやって調べますか？」</p>	CG効果：背景を明るくほかす
24		<p>ナレーター： 「専門家に、聞いてみましょう」</p> <p>ギャ音：オー（EX）</p>	テロップに”国語学者”として印象づける書齋で話す専門家として権威づける
25			
26		<p>学者：「年齢の高い人ほど・・・」</p>	
27		<p>学者「・・・辞書で調べているのに対して、若い人はケータイで調べているんです。」</p> <p>ギャ音：オー（EX）</p>	
28		<p>SE：キラリン（2枚目のフリップへ）</p> <p>学者：「慣用句の正答率の調査では10代の方が60代よりもよい結果がでているものもあるのです。」</p>	
29		<p>SE：トゥルン（場面切り替え）</p> <p>BGM：平和な日常の音楽</p> <p>母：「ん？これって・・・」</p>	傍らには、さりげなく携帯電話と国語辞典が置かれている。
30		<p>母：「・・・どういう意味？」</p>	テロップ：「東雲？」

31		<p>現場音：パカッ（携帯を開ける音）</p> <p>現場音：ピピピ（携帯の操作音）</p> <p>ナレーター：「おや、さっそくケータイで調べものですか。」</p>	
32		<p>娘の心の声：（さっきは信じてなかったのに・・・）</p>	娘の心の声：少しエコーをかける
33		<p>現場音：パカッ（携帯を開ける音）</p> <p>現場音：ピピピ（携帯の操作音）</p>	
34		<p>娘：「これを見て」</p> <p>SE：ジャン（ケータイを「どうだ!」と見せる）</p>	
35			
36		BGM：オチの音楽	
37		<p>BGM：テンポのよい音楽</p> <p>ナレーター： 「今日は、ケータイを使ったいろいろな勉強方法をバッチリ教えちゃいますよ。」</p>	学習している様子を複数示す
38		<p>ナレーター： 「新発見。あなたも明日からやってみよう。」</p>	